

# 「第 22 回情報処理センター等担当者技術研究会:giken22」実施報告

名古屋工業大学技術グループ共同利用チーム

高橋直子

takahashi.naoko@nitech.ac.jp

## 1. はじめに

平成 22 年 9 月 16 日・17 日に名古屋工業大学において「第 22 回情報処理センター等担当者技術研究会」(以下、giken22)を開催した。開催にあたり、名古屋工業大学情報基盤センターが主催し、技術グループが協賛した。筆者は、情報基盤センター担当の技術職員として giken22 の実行委員会に参加した。また今年度は、過去開催校スタッフとして平成 23 年度の研究会(giken23)ならびに、今後の研究会の開催プロセスを検討する会議にも出席した。この度、平成 23 年度三重大学技術発表会に出席する機会を得たので、giken22 の実施報告と研究会の紹介をする。

## 2. 情報処理センター等担当者技術研究会とは

この研究会は、各国立大学法人情報系センター等の担当職員が最新の情報技術や情報システムの管理運用等に関する研究発表、現状報告、意見交換を通じて自己研鑽し、さらに職員相互の交流を深める情報収集の場を提供することを目的としている。近年では、多くの大学において、情報処理センター等以外にも情報システムの構築や統括を担当する部局が立ち上がり、担当者の技術交流や情報交換などが求められている。運用管理に関する課題を中心テーマとした数少ない全国規模の会として、この研究会が果たす役割は益々重要なものとなってきている。

## 3. giken22 の開催にあたり

名古屋工業大学は、情報基盤センターの改組後にあたる第 19 回から研究会に参加している。会の趣旨に賛同し、全国各地で開催されることにより、ひとりでも多くの担当者が参加可能になればという期待を持っていた。参加当初は本学センターの規模では研究会開催には人数不足のため二の足を踏んでいたが、技術グループと事務局の協力により、晴れて第 22 回の開催校に名乗りを上げることができた。

名古屋工業大学では、技術グループに所属する職員は、業務依頼を受けて学内の各部署にて業務を行う組織体系である。「担当者技術研究会」という会の性質上、情報基盤センター担当の技術職員によって実行委員会を立ち上げ、情報基盤センター以外の技術職員も研究会スタッフとして業務できるよう技術グループが協賛し、人的支援の体制を整備した。この技術グループの支援により、ほぼ全員のセンター担当者は、主催者側でありながら、研究会への発表や聴講参加が可能となり、たいへん有意義な会となった。

## 4. 今後の研究会について

平成 23 年 8 月 25 日(木)～26 日(金)に室蘭工業大学で開催された第 23 回研究会においても、情報メディア教育センターと技術部が協力して開催しており、スタッフの少ないセンターでの開催スタイルのひとつとして受け入れられつつある。今後、研究会の参加機関・参加人数の増加に伴い、開催校の負担が懸念されるため、研究会設立当初の世話人校代表者および過去の開催校代表者、今後の開催を検討する機関の担当者らで構成される運用連絡会議が設けられた。この会議では、開催校の選出プロセスや開催スタイルなどを検討し、今後も多くの大学が開催校として名乗りを挙げやすいようサポートしている。

## 謝辞

平成 23 年度三重大学技術発表会において、giken22 の実施報告と研究会の紹介をする機会を与えていただき、お世話になった三重大学の皆さまに深く感謝いたします。ありがとうございました。